

秩父の森の鉛筆のできるまで

- 森林環境譲与税の創設によって、県東部の自治体と水源地域の森林がある秩父地域の1市4町の間で連携して取り組む事を模索するなかで、県東部の自治体から鉛筆づくりの提案がありました。
- 県東部には鉛筆を製造する工場が4社あることが分かり、秩父の森から生産されるスギの間伐材で鉛筆ができないかの検討を開始しました。
- 調べてみると、日本での鉛筆の生産は明治中期にはじまり、初めはアメリカ産のエンピツビヤクシンを使って生産されていました。その後、国産のビヤクシンやイチイ、ホオノキ、カツラといった木を使って作られていました。鉛筆用材としてはヤマハンノキ、シナノキ、ヒノキ、ヒメコマツ、シラカバ、アカマツ、スギ、サワラ、コウヤマキ、なども使われていました。
- 今、日本で作られている鉛筆は1年間で約2億本、そのほとんどが外国から輸入された木材で作られています。アメリカのカリフォルニア州で育つ「インセンスシダー」という名前の木です。
- 私たち日本人は、昔から森林に人の手を入れて上手に木を使うことで森林を保全していくという木を使う文化を受け継いできました。
- 秩父にも大きく育ったスギの木やヒノキの木が沢山あります。この資源を有効に活用することが秩父地域の経済や雇用の維持にも繋がることになると考えています。
- そこで、昨年度から秩父のスギを使って鉛筆を試作することになり、製材工場、木工所、鉛筆工場といっしょに幾つかの課題を克服して、この度、「秩父の森の鉛筆」製品化の道筋をつけることが出来ました。活性化協議会や県東部の自治体では、この鉛筆をイベント等の機会に配布しています。

*この鉛筆の製造・販売に関わることについては、秩父地域森林林業活性化協議会へお問い合わせください。

秩父の森の鉛筆のできるまで

ステップ1 製材加工

製材所

板に加工
巾は50mm
以上でOK



スギ柵目 秩父材
乾燥材 無地上小

厚 10mm
巾 75mm
長さ 2,000mm

300枚

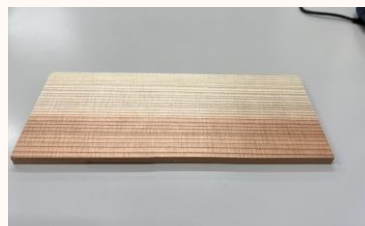
ステップ2 スラット加工

木工所

厚さと巾、
長さを調整



スラット
両面カンナ加工



厚 5mm
巾 73mm
長さ 183mm

3,000枚

ステップ3 鉛筆加工

鉛筆工場



12,000本